

結核・呼吸器感染症・非結核性抗酸菌症について

1 結核 ～今も国内で年間約 1 万人が発症する感染症～

結核とは

結核は、結核菌によって発生する我が国の主要な感染症の一つです。結核菌は主に肺に感染し、咳、たん、発熱、体のだるさ等の症状を呈します。初期には症状が目立たないこともあり、特に高齢者では気付かないうちに進行することがあります。結核が進行した場合、血痰や呼吸困難などの症状が出現し、咳などにより結核菌を含んだ飛沫が空気中に飛散し、その菌を吸い込むことで周囲の人へ感染が広がります（空気感染）。

東京都では、令和6年に新たに 1,187 人が結核患者として登録され、145 人が結核により亡くなっています。令和6年末時登録結核患者の45%は70歳以上でした。また、若年の外国生まれの患者の割合が増加しており、20-29歳の新登録結核患者の約9割を占めています。

予防・早期発見のために

定期的に胸部エックス線検査を含む健康診断を受けることが重要です。学校・職場健診等検査の機会がない場合は、お住まいの自治体にお問い合わせください。結核を発症しても、早期に発見できれば重症化を防げるだけでなく、家族や友人等への感染拡大を防ぐことができます。咳やたんが2週間以上続く場合や、発熱、体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

2 呼吸器感染症 ～手洗い・換気・咳エチケットが基本～

呼吸器感染症とは

呼吸器感染症には、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症、細菌性肺炎などがあります。これらの多くは、感染した人の咳などによる飛沫などを介して感染します。

予防のために

呼吸器感染症対策の基本は、手洗い、換気、マスクの着用を含む咳エチケットなどです。外出先から帰宅した際や食事前などにはこまめに手を洗い、咳やくしゃみをする際には鼻と口を覆うことが大切です。また、高齢者や基礎疾患のある方では、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症、肺炎球菌感染症等のワクチン接種が重症化予防に有効です。

3 非結核性抗酸菌症（NTM 症）～長引く咳には NTM 症という可能性も～

非結核性抗酸菌症（NTM 症）とは

非結核性抗酸菌症（NTM 症）とは、土壌や水環境などに広く存在する非結核性抗酸菌（non-tuberculous mycobacteria: NTM）によって起こる感染症です。NTM は浴室のシャワーヘッド、水道の蛇口等にも生息しており、NTM を含むエアロゾルの吸入等により、肺内に取り込まれます。感染しても発症しないことがあり、発症は免疫や体質に依存すると考えられています。高齢者や基礎疾患のある方では発症しやすいことがあります。肺への感染が最も多く、長引く咳やたん、発熱、息切れ、倦怠感、体重減少などの症状がみられます。病気の進行は比較的ゆっくりですが、長期間続くと肺が傷つき、呼吸しにくくなることがあります。

早期診断のために

人から人へ感染することは一般的にはありません。長引く咳やたん、息苦しさなどの症状がある場合は、早めに呼吸器内科などの医療機関を受診し、早期診断につなげることが重要です。